広報まき
1968年3月10日
第48号
発行　新潟県巻町役場
電話 代表 (2)3131
編集　企画調査課

住民基本台帳人口
（昭和43年2月29日現在）
総人口　27,748人
男 13,360人　女 14,388人
世帯数　5,999

8・28災害復旧事業今月完成

稲島水路ほか十六カ所

総額二千三百七八万八千円

稲島の大沢さげ水路復旧工事

昨年の八・二八水害で町は各所に大きな被害を受けました。

町では一日も早く災害復旧をはかるために、ただちに県に災害復旧事業として申請し、県の査定を受けました。

その結果、災害復旧事業費は総額二千二百五十七万九千円、関連事業費百二十万九千円が決まりました。

工事は今急ピッチで進められており、今月中に全復旧工事が完了します。

災害復旧箇所は次のとおりです

・東町　古志田～寺潟排水路合流点復旧工事、延長六十三メートル。事業費二百四十六万九千円。

・古志田～寺潟排水路復旧工事、延長三百七十六メートル。事業費二百九十六万円。

・漆山　赤池排水路復旧工事、延長九十三メートル、事業費九十三万円。

・漆山排水路復旧工事　延長五十七メートル。事業費五十二万三千円。

・並岡　排水路復旧工事、延長十八メートル。事業費十六万八千円

・赤さび　下仲江簡排水路復旧工事、延長二十一メートル。事業費百十三万三千円。

・赤さび下げ排水路復旧工事　延長三百三十九メートル、事業費二百七十七万円。

・福井　矢垂川上流復旧工事、事業費百六十二万円。

・下流復旧工事　事業費百十四万五千円。

・水田復旧工事　面積二十一アール。事業費十二万五千円。

・伏部　貯水池復旧工事、①延長四十二メートル。事業費七十二万四千円。②延長十メートル。事業費三十六万五千円。

・道路復旧工事　延長二十メートル。事業費百三十四万円。

・稲島　大沢さげ水路復旧工事、七十六メートル事業費二百六十一万円。

・道路復旧工事　延長六十五メートル。事業費二百三十四万六千円

・水田復旧工事　面積八アール。事業費二十一万円。

・松野尾　西山さげ復旧工事、延長四十一メートル。事業費百七十七万円。

・角田　二の沢さげ復旧工事、延長六十六メートル。事業費五十八万円。

三月定例町議会十一日招集

予算案一般会計　四億二千二百万円

昭和四十三年第一回巻町議会第一回定例議会は、三月十一日午前十時から役場議場に招集され、会期十二日間の日程で二十二日まで開かれます。

この三月定例議会は、年間開かれる議会の中で一番長い会期です。それは、町長が新年度の施政方針を明らかにし、それに伴って行なういろいろな事業や予算などを決める重要な議会だからです。

提出が予定されている議案は、昭和四十三年度一般会計予算案外二十五件、請願一件となっております。

昭和四十三年度一般会計当初予算案は、総額四億二千二百万円となっており、昭和四十二年度当初予算額より三千六百六十万円（九％）上回る大型予算案となっています。

議会日程

・十一日本会議開会、町長施政方針表明、議案一括上程、一般質問
・十二日本会議、一般質問終了後議案審議に入る。
・十三日本会議、議案審議
・十四日本会議、議案審議（各委員会議案審議付託）
・十五日自宅審議
・十六日から二十日まで各委員会
・二十一日全員協議会
・二十二日本会議

巻農協で野菜産地の仮指定受ける

促成トマト、キュウリを栽培

町では巻町農業協同組合を事業主体として、四十三年度野菜指定産地の申請を行ないこのほど県から仮指定になりました。

水稲単作地帯は稲作経営の合理化に伴い、年調を過してかなりの余剰労働力があり、農閑期はほとんどの農家が出稼ぎにでているのが現状です。

この余剰労働力をなんとか農業に向けようと、稲作労働力と比較的競合の少ないハウス園芸の栽培をとり入れ、品種統一、計画生産と組織による集団生産出荷によって、農業所得の増大をはかるものです。

事業は三年計画で促成トマトとキュウリの栽培を重点的にとりあげることになっており、四十三年〇〇アール の第一年めはそれぞれ作付面積一（三、〇〇〇坪）生産量七十五トン、出荷量七十三トンを計画。三年めには、作付け面積一八〇アール（五、四〇〇坪）生産量一三五トンにし、それぞれ一三〇トンの出荷を目標にしており町では積極的に指導にあたっています。

高木県児童課長の講義を熱心に聞く若妻たち

――若妻が基礎知識を学ぶ――

好評の「やさしい農業教室」

巻町農業振興協議会（会長江端町長）は、二十歳から三十歳の若妻を対象に、近代的な農家と安定した農業経営の援助者として必要な農業基礎知識および生活技術についての研修を目的に「やさしい農業教室」を開きました。

漆山農協をスタートに緑岡、松野尾農協の三会場に開催、各会場とも農業に意欲を燃やす若妻九十人が参加、熱心に受講しました。

漆山農協の第一日目は普及所那須野技師が「肥料の計算のしかた」について、高橋技師が「丈夫な苗づくり」について、西村普及所長から「グループ活動のすすめかた」についてそれぞれお話を聞きました。

また、昨年県下一の米づくりになられた山賀小七さんから「米づくり体験発表」が行なわれ参加者は熱心にメモをとっていました。

第二日目は農協の田辺専務が「地域農業のありかた」、高木県児童課長が「家庭と子供」、野沢町経済課長から「巻町農業施策」について、お話を聞きました。

また、清水技師から「やさしいオヤツのつくりかた」について実習と講義が行なわれました。

最後に座談会を行ないましたが参加者は「専門的知識を身につけることができ、大変勉強になりました。」と話しておりました。

公民館、教委、共済組合は十八日から役場に移転

いよいよ、巻土木事務所が開設されることになりました。

事務所の開設場所は、現在の公民館の建て物です。

これに伴い、現在ここに事務所のある町教委事務局、公民館、農業共済組合の三つの事務所は、三月十八日から役場へ移ります。

役場の中の位置は農業共済組合が玄関へ入って直ぐ右手の第一会議室に、教委事務局と公民館は三階の今回改築したところへ入ります。電話は現在使っている番号をそのまま使うことになっています

町立国保病院

全病室にインターホン

町立国民健康保険病院は、全病室と看護婦詰所にインターホンを備えつけ、入院患者から大変喜ばれています。

このインターホンは、今までの呼びボタンにかわるもので、病室と看護婦室が直接話ができるもので、患者の容態や用件などいたまま話すことができたなるとの上にも大きな効果をあげています

そのため、看護婦は労働が軽減される上に、患者へのサービス向上にも大きな効果をあげています

工事費は九十六万円です。

子どもの春休みは――家庭の生活指導を中心に――

児童、生徒にとっては、一年間の学校生活に休止符をうって、つぎの新しい学年を迎えるまでの間夏休みや冬休みとまったく違った自由な躍動の世界に放たれたような解放感をいだくのが、この春休みの特色です。

家出やゆうわくというような事故や犯罪が起ったり、事件にかかわりをもったりする子どもが多くでるのもこの時期です。

春はただでさえ、人の心を浮き足だたせ、思慮をかくことも多い季節に加えて、学校としては、家庭で希望されるような宿題などもあまり出せません。せめて新しい教科書でもと思ってもありません

そこで、家庭指導のよりどころがないといって困りの方もあると思いますが、ほかの休みと違った性格をもっていますから、家庭指導も違った形が考えられてよいのではないでしょうか。

その違った形の家庭指導の重点を、生活指導を中心に次の三段階にわけて考えてみましょう。

(1)春休み前期は、一年間の整理と反省。

一年間に使った教科書、ワークブック、ノートなどから成績物までを、きちんと整理しましょう。その結果、楽しかったこと、つらかったことなどについて親子で話し合い、子どもの進歩の状況や到達できなかったことなどを反省することは、新しい学年への方向を決定し、意欲的に希望をもつことになります。

(2)中期は、家庭人・社会人としての体験。

解放されたこの時期こそ、のびのびと家庭の味をかみしめながら家事の実習をさせたり、春の一日は近くの山などへ家族つれだってのハイキングなど、ぜひ心がけたいことです。家族がほんとうにふれ合う絶好のチャンスであり、子どもが親を理解し、幸せを覚える家庭の行事ではないでしょうか。

それと同時に、地域子ども会が新しい組織をつくり、一年間の活動方針を打ち出したり、もっぱら活動しなければならないのもこのときです。

(3)後期は新学年を迎える準備。

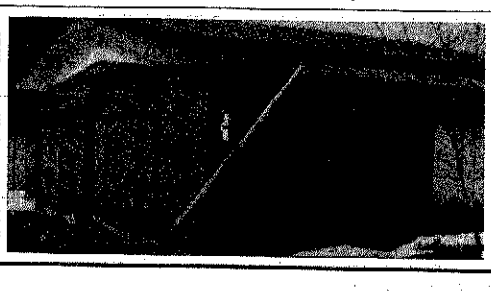
前年度の反省にもとづき、新年度を希望にみちた、しかもしっかりした心がまえで迎えることができるようにすることです。

学年末と新学年はじめとでは、とくにかわったわけではありませんが、雪の重みにたえる竹の節のように、くぎりをしっかりとひきしめ、励ましを与えるようにいたしましょう。それと同時に、学用品の面でもあわてないだけの準備をし勉強部屋なども新しいふんいきにとけこめるようにしたいせつなことです。児童生徒にとっては、新しいコースのスタートラインにつくわけです。親としてはおもいやりのある配慮をもって、最高の調子をつくってあげましょう。

医師住宅完成

町立国民健康保険病院では、病院の西手に医師住宅一棟を建設していましたが、このほど完成しました。

建て物は木造平家建で延面積七十・三九平方メートル、工事費は百八十九万円で、りっぱな建て物へす。



病院わきに完成した医師住宅

ごあんない　役場

住民課（課長　市橋勝）

戸籍の届け（出生、婚姻、死亡など）や住民基本台帳の届け（転入、転出、転居など住所に変更が生じたとき）はこの窓口へおいでください。また印鑑届けや印鑑、身分、資産、納税などのいろいろな証明書が入用のときもこの窓口で交付いたします。

その他行政苦情、相談は住民相談室で係が面接し、お話を伺うようになっております。

このように住民の方々のほとんどの用件はこの二つの窓口でたりるようになっています。

住民課では次の三つの係があり、それぞれ住民の方々から申請、願、届けにもとづいて事務処理をしています。窓口係4人住民係5人、住民相談室1人。

3月16日

巣立つ若人のつどい

中卒二百人の前途を激励

町教育委員会では、今春管内中学校を卒業し、四月から実社会の第一線で働く若い力約二百人の前途を激励する「社会に巣立つ若人のつどい」を、三月十六日午前十時から麿見座映画劇場で開きます。

当日は、江端町長、渡辺教育長が激励のことばを贈り、ひきつづき北川公民館長が、「社会に出てグループ活動を進めるために」施設や団体の紹介をすることになっています。

また、ことし初の試みとして、社会生活の先輩六人が、おのおの職場、人間関係などの体験談を発表し、後輩に社会の予備知識を与え、勇気づけることになっています。終わって、昼食をたべながら「荒野の一〇万ドル」外二本の映画を鑑賞し、一日をゆっくり楽しむことになっています。

――昭和43年度――町奨学生募集

町教育委員会では、新年度の奨学生を次の要領で募集いたします。希望者は申し込んでください。

一、奨学生となる資格

巻町に在住、または巻町に生活の根拠を有する者で、品行が正しく学術にすぐれ、身体が強健で経済的理由により修学困難と認められる者です。

二、募集予定人員・貸与額

(1)高等学校奨学生　一〇人
　一か月　一千五百円
(2)高等専門学校奨学生　一人
　一か月　二千円
(3)大学奨学生　四人
　ア下宿または寄宿生　二人
　　年額　四万円
　イ通学生　一人
　　年額　二万円

◎貸与期間はいずれも正規の最短修学期を原則とします。

三、貸与金の返還方法

貸与期間を終了したのち教育委員会と貸与者との間で返還年数をきめ、年賦、半年賦、月賦などの方法で返還することになります。

四、申し込み期限・申し込み方法

(1)高等学校・高等専門学校奨学生の希望者は、三月末日までに在学中学校長を通じて教育委員会へ申し込むこと。申し込みは各中学校の学級主任の先生に相談してください。

(2)大学奨学生希望者は、四月末日までに所定の申し込み用紙に必要事項を記入し、在学証明書を添付して教育委員会へ申し込んでください。（申し込み用紙は教育委員会事務局にあります。

五、奨学生の決定

後日教育委員会で選考、本人あて通知いたします。

◎その他不明の点は事務局へお問い合わせください。

（電話二一二七九二番　二三二九番）

住民異動届けを忘れずに

昨年11月10日をもって"住民基本台帳法"が施行になり住所に異動があった人は市町村役場へ届け出なければならないよう義務づけられることは住民のみなさんには幾度かこの欄をかりてお知らせしてありますが、春ともなると転勤、進学、就職と住所の異動が多くなります。そこで今一度届け出の方法についてお知らせいたしますので、該当される方は忘れずに届け出てください。

○転入届（町外から入って来た人）

十四日以内に転出証明書、印鑑米穀購入通帳、保険証、年金手帳をもって窓口へおいでください。

○転出届（町外にこれから住む人）

印鑑、米穀購入通帳、保険証、年金手帳をもって窓口へおいでください。

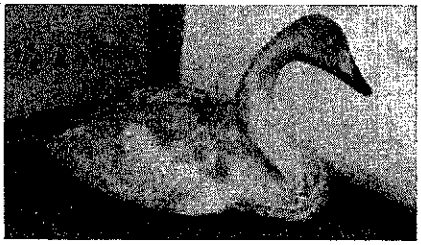
○転居届、（町内で住所が変った人）

印鑑、米穀購入通帳、保険証、年金手帳をもって窓口へおいでください。

その他詳細については住民課住民基本台帳係へ問い合わせてください。（電話役場二の三一三一内線三一番と三三番です）

稲島に飛べない白鳥

善意のリレーで無事"瓢湖"へ



役場宿直室に保護された白鳥

三月五日夕方、役場宿直室に、病気で大空を飛べないオオハクチョウの幼鳥（生後十か月・体重五キロ）が、十区鈴木金治さんの手にいだかれ、届けられました。

この白鳥は、飛来中病気のため力尽きて稲島地内に降下したと推測され、道路上に横たわっているところを、仕事帰りの鈴木さんに発見されたものです。

当夜の宿直員小出係長は、珍客白鳥の取り扱いにおお弱り、白鳥がひん死の病気で一刻をあらそうため、さっそく白鳥の町、水原町役場に連絡、引き取りをたのんだところ、同町村上庶務課長が深夜にもかかわらずジープで駆けつけ、連れて帰りました。

病気の白鳥は、瓢湖の白鳥飼育者で有名な吉川さん宅の「白鳥ドック」に移され、手当てをされることになりました。

瓢湖の白鳥は三月二十日ころ、シベリアに帰るといわれていますので飛べない白鳥は、仲間のいない淋しい日本滞在になりそうですが、どなたか、好物のしいなを送って白鳥をなぐさめてやってください。

交通事故から守ろう

新入学児園児の安全確保

四月になると、真新しいランドセルを背負った新入学児やカバンを肩にかけた新入園児のかわいらしい姿があちこちでみられます。

しかし、交通事故は初めて両親の手をはなれる、この子らにも手加減しません。

そこで、交通規則をあまり知らない新入学児、新入園児を交通事故から守るために、交通事故防止強調期間が、三月二十五日から四月二十日まで県・町・各関係団体が協力して、交通安全教育の徹底登下校時の安全確保をはかる目的で実施されます。

子どもたちが安心して通学、通園できるよう、町民みなさんもご協力ください。

公民館で各団体の実態調査

趣味、学習、その他を目的とする各団体（会、サークルなど）の代表者のみなさんにご協力をおねがいします。

公民館では、このたびいろいろな団体の活動状況の実態をつかんで、町社会教育発展の参考にしたいため調査を行なっております。

先日公民館が熟知している各団体には、調査用紙を送付活動状況の調査を依頼しましたが、送付もれの団体もあろうかと思われますその団体については、ご連絡いただければ、さっそく調査用紙を送付いたしますので、調査にご協力ください。

重症心身障害児が"看護婦さん"求めています

重症心身障害児が看護婦さんを求めています。

本県の重症児者は六百人と推計され、このうち施設に入所していて年金手帳をもって窓口へおいでください。

その他詳細については住民課住民基本台帳係へ問い合わせてください。（電話役場二の三一三一内線三一番と三三番です）

家族づれで探勝を

みずばしょうの季節

少し早いようですが、町の指定文化財みずばしょうが雪どけ間もない三月末から仁箇天狗の谷（通称てぐり山）に純白の花をつけます。

みずばしょうは寒地性の植物で中部日本では高山の湿地帯に多く生育しています。（尾瀬沼は有名です）

ここ天狗の谷のような低地にみずばしょうがみられるのは珍しいといわれています。さらに、足を一歩のばせば稲島の明後沢に群生するぎんめいちくをみることができます。

家族づれのハイキングには最適かと思います。

今月の歌「春の小川」などいかがでしょうか。

「春の小川」

春の小川はさらさら行くよ
岸のすみれやれんげの花に
姿やさしく色美しく
咲けよ咲けよとささやきながら
春の小川はさらさら行くよ
えびやめだかや小鮒の群れに
今日も一日なだで泳ぎ
あそべあそべとささやきながら
春の小川はさらさら行くよ
歌の上手なかわいい子ども
声を揃えて小川の歌を
うたえうたえとささやきながら

（カットは丸山清六氏）

お知らせ

緑の羽根

街頭募金にご協力を

ことしも、「緑の羽根」の募金運動が四月一日から一か月間くりひろげられます。

この運動は、国土の緑化を推進するため、昭和二十五年から毎年行なわれているものです。

集められた募金は、校庭緑化、都市美化、水源林の造林、災害防止林などに使われます。

町でも期間中、高校生、中学生の奉仕で、街頭募金を行ないますので、国土を緑でいっぱいにするため、ご協力をおねがいします。

「南九州地震義援金」募集中

二月二十一日南九州を中心とし地域、九州全域を襲った地震は、同のどん底におとし入れると同時に、家屋などに大きな被害を与えました。

これら被災された人たちに力強くみなさんから「南九州地震義援金」を募集しています。

義援金は、日本赤十字社巻分区（役場厚生課内）で三月二十五日まで受け付けております。なお、役場相談室前にも募金箱を設置しました。

新潟地震当時によせられた全国各地の温情を思いおこし、ぜひ暖かい手をさしのべてください。

これらのものは、びわこ学園二十人、島田療育園一人、国立新潟療養所二十三人のわずか四十四人が、保護を受けているにすぎません。

びわこ学園（滋賀県）島田療育園（東京都）の両施設は、収容力に余裕がありながら看護婦が足りないため、中し込みに応じられないのが現況です。

しかし、県で同施設に看護婦をあっせんすれば、職員一人につき二人の重症児を受け入れるむねの回答がありました。

そこで県では、在宅を余儀なくされている重症児を一人でも多く施設に収容するため重症心身障害児施設に働いてくれる"看護婦さんヤーイ"とさがしています。

賃格は、看護婦、準看護婦で年齢二十五歳未満。希望者は、役場厚生課に問い合わせください。

今月中に国年加入を

明治44年4月2日から昭和5年4月1日までの間に生まれた人

明治四十四年四月二日から昭和五年四月一日までの間に生まれて国民年金未加入の人は、三月末日までに役場年金係で必ず加入手続きをしてください。

もし、今月中に加入しないと、将来老齢年金と老齢福祉年金がもらえませんのでじゅうぶんご注意ください。

昭和四十四年歌会始お題は「星」

昭和四十四年歌会始のお題および詠進の方法が、宮内庁から発表されました。

○お題　「星」

※星は天然の星に限ります。「天の川」も星の群ですから歌の中に題材として使っても結構です。

○詠進の方法

(イ)一人一首限りとし、未発表の歌であること。

(ロ)詠進の用紙は、半紙白紙一枚を用い、毛筆で自署のこと。

(ハ)書式は、半紙を横に二つ折りにして、右半面にお題と歌、左半面に住所、氏名（ふりがな）、生年月日、職業を書くこと。

(ニ)詠進の期間は、本年九月一日から十月十日（消印有効）まで

(ホ)郵便のあて先は、「東京都中央郵便局区内　宮内庁」とし、封筒に、「詠進歌」と書き添えること。

(ヘ)その他くわしいことは宮内庁式部職あてか、役場企画調査課にご照会ください。

さうこぶんこうえ？

（二月一日以降届け出）

赤ちゃんの名まえ	生まれた日	保護者名	住所
斎藤美砂子	1・21	松野尾 弘	東6区
堀内 健一	1・23	荘 六	赤さび
猪俣 豊	1・24	健 三	新潟
大場 正樹	1・25	輝雄 稲	区
入村 祐子	1・25	英樹 島	区
小林 康宏	1・25	岩三郎 仁箇	区
深沢 明子	1・25	達夫	区
田辺 久代	1・25	常晴 馬場	区
須貝 桂子	1・26	富士男	区
山岸 和明	1・27	八郎	区
岩崎 広子	1・29	五三郎 作	区
芦田 里美	1・29	栄	区
大岩 靖	1・29	宏	区
本間 正人	1・30	三男	区

○おくやみ●

（二月一日以降届け出）

名まえ	死んだ日	年齢	住所
山本 才一	1・31	76	興業
乙山 園平	2・1	63	馬場
外山 フミ	2・6	68	浜田
桑原 与作	2・7	82	堀漆山
内藤 ヤス	2・6	86	仁箇
岸本太一郎	2・13	81	箇
渡辺 イセ	2・15	77	五区
野沢 コセ	2・16	90	漆山区
大地 勝衛	2・16	52	漆山区
渡辺 治六	2・18	86	仁箇
生田 スイ	2・14	6	箇
河治 努	2・22	84	鷲ノ木区
泉井 イサ	2・21	12	区
三富 精蔵	2・24	5	区
佐藤 サキ	2・60	角田浜	
本間 克衛	2・25	稲島	
山本 小市	2・21	前組	区
山添清一郎	2・29	68	松山新田
河村 七治	2・29	80	区
白崎 二樹	1・30	邦治	稲島
棚辺久美子	1・30	正男	赤さび
山田 和枝	2・1	一	10区
宮川 博幸	2・1	藤雄	天神町
河合 基江	2・3	力士	業萱場
本田 和也	2・3	省三	11区
裏田 良彦	2・3	良次	越前浜
金井 葉子	2・4	正勝	9区
本間 浩幸	2・4	雅栄	9区
佐藤 靖幸	2・5	一幸	7区
亀田 道子	2・7	晃義	東汰上
佐藤 美和	2・7	勝	区
阿部 英喜	2・8	清喜	平沢
佐藤 敏司	2・9	勇平	団地
大地 勝衛	2・10	勝登志	3区
佐藤 道代	2・10	鶴雄	業萱場
岩崎 紀子	2・11	正勇	13区
小林 好美	2・12	義晴	東町
相馬 澄子	2・12	九一市	馬場
石田窯美子	2・14	孝行	並岡
三島 成幸	2・14	和一	安尻
波入 陽介	2・15	勝栄	4区
原田 亮	2・16	治	13区
永井 敏	2・16	耕	13区
内藤 靖	2・17	昭吾	13区
佐藤 政道	2・19	孝志	1区
内藤 裕子	2・20	郁男	4区
石田 米彦	2・20	忠也	13区
石田 学	2・21	晃正	並岡
加藤ルリ子	2・22	三夫	赤さび
丸山 健一	2・24	辰男	4区

山添清一郎氏

旧巻町長、新巻町の町長職務執行者として、町政に偉大な貢献を尽された四区山添清一郎氏八十歳が二月二十九日死去されました。

はがきの所有者は事前調査にご協力ください。